娘との生活

（特別養子縁組里母さん体験談）

【研修から受託まで】

里親になるための研修会の時に、養子縁組の話しは多くないと聞いていたので、そういうものかとのんびり構えていました。

しかし、養子縁組前提の委託の話がある日突然きたのでとても驚きました。

驚きはしましたが子どもの受け入れを断る選択肢はありませんでした。当時、仕事は忙しい上に遠方だったので、子どもに何かあったときのことを思って、辞めました。今は違う仕事をしていますが、結果、その選択で良かったです。というのも、娘は保育園で流行っている感染症を必ずもらってきていました。そんな時、頼れる身内が近くにいなかったので、自分が仕事を休んで娘をみることができました。当時の仕事を続けていたら無理でした。

【子どもとの関係づくりと生活】

養子縁組の話がきたのは、娘が生後 7 か月のときでした。当時、娘は乳児院にいたので、乳児院に通って、スキンシップで関係づくりをしました。

我が家での生活が始まったのは 9 ヵ月の頃でした。子どもを受け入れた時の年齢が低かったからか、良く聞く「ためし行動」と言われるような行動はなく、大きな困りごともなかったように思います。

それでも、受け入れたばかりの頃は“なんでこのタイミングで大泣きするのか”、“なんで今このわがままを言うのか”というのが分かりませんでした。お風呂で大泣きしていたのも大変で、当時は通報されないだろうかとハラハラドキドキしていました。当時の泣いている様子を動画で見直すと、今なら「あぁ、おなかがすいてるんだな」とか「眠たいんだな」と言うのが分かります。

現在は、年長になり、子ども自身は楽しく保育園に通っていて、かけっこや折り紙等、毎日楽しそうに過ごしています。

【真実告知について】

娘の出生について、どのタイミングで言おうかとずっと考えていました。先輩の話しを聞くと、4 歳、5 歳の頃に伝えるケースが多かったので、うちも最初は 4 歳くらいの時に話しました。ちょうどテレビを観ていたら、動物の赤ちゃんの番組をやっていて、「あなたにも生んでくれたお母さんがいるんだよ」と話しました。娘の反応は「ふーーん」と言う感じだったので、分かってないなと思って、その後も何回か伝えました。

最近は成長と共に生んでくれた母が別の人ということに気が付き始めて「生んでくれたお母さんはどうしてこの名前にしたの？」と聞いてくるようにもなりました。少しずつ分かってきたのかなと思っています。

【ふれあいフォスター事業での経験】

里親登録した後、ふれあいフォスター事業に参加し、夏休みや冬休みに児童養護施設で生活する子どもを 3 人預かりました。それまで夫と 2 人暮らしだったので、とても勉強になりました。想定外な事が多く、子どもってこんなに無茶苦茶なんだ（笑）と。子どもが持っているエネルギーは私の想像のはるか上をいきました。子どもとの関わりはとっても疲れたけど、楽しかったです。

フォスター事業には娘が来てからも参加しています。子ども同士で遊んでいる姿をみて癒されましたが、施設に帰るときにはお互い大泣きしてしまい、施設に帰らないといけない子を思うととても切ない気持ちになりました。

様々な子どもとの関わりが良い経験となりました。